

ユース年代 (U19 以下) の審判員の育成指針 (2015 年度)

審判活動しているユース年代の審判員に対しJFA/地域/都道府県協会審判委員会が、共通の目標に向けて一貫した指導ができるようにするために指針を示す。

ユース年代の審判員の多くがS4審判員であり、積極的に審判活動に関わっている者の多くがS3級審判員であることから、審判員として「S4級審判員」「S3級審判員」のそれぞれの目標を目指すことになる。

S4級審判員の目標「競技規則を理解し正しく施行することによって、試合を円滑に進めることを追究する」を達成するために

- サッカー競技、競技規則、審判員の役割など基本的な知識を理解する。
- 競技規則に従って試合を運営することと、試合を運営するための基本となるシグナルの習得と実践。
- フィジカルに対する基本姿勢を身につける。持久力をつける。
- 試合に関わる情報を常に収集し、審判員の役割や任務への気付きとする。

S3級審判員の目標「適切なポジショニング(対角線式審判法)によって、事実を見極め、的確な判定で、試合を正しく進めることを追究する」を達成するために

- サッカー競技の特徴をおよび競技規則の解釈と適用を理解した上で、行うべきこと、監視すべきことを適切に実践する。
- 試合の流れやプレーの展開の予期・予測によるポジショニングの実践と、審判員としての任務の遂行に努める。
- 瞬発力、スピード・反応性の強化を図り、持久力の向上に努める。
- 収集した情報を、試合中でも自己分析し、適切に対応する。

「ユース年代の審判員の育成指針」

上記の各級の審判員の目標に対する取り組みを踏まえ、ユース年代の審判員には特に

- 競技規則に従って試合を進めるための「競技規則の理解」を深めさせる。
- 競技規則に従って試合を進めるための笛の吹き方やシグナルの示し方の磨きを図る。
- 試合の中で起きる事象を見極めるために必要とされる動きの量とスピードを養うようにする。
- サッカーに関わる人々からの情報を得て、「サッカー競技」に関する理解を深めるようにする。

具体的には、

- サッカーに関わるだけでなく、一般社会における「社会道徳」や「社会規範」について知り、実践する態度を養えるようにする。またサッカー(審判活動)を通して見聞を広げ、広い視野をもって国際社会で活躍できる人材となれるよう育成する。
- 審判員としての活動によって、「審判技術の向上」を図るだけでなく、「人間性の向上」が図れるようにする。またサッカーファミリーの一員として「仲間を尊重」し、互いを認め合うために必要なコミュニケーション力が向上するよう育成する。
- 「教わるという姿勢」ではなく、「自分からチャレンジして発見し学ぶという姿勢」を持って、審判活動だけでなく、「サッカー」に関わっていけるようにする。また「仲間と競い合う」ことによって、他者の良い面を発見し、認めあいながら成長できるよう育成する。

<参考資料>

- 「ユース審判員育成のための指針」 2012年6月16日～17日 全国審判委員長会議資料